

平成29年度 全国中学校体育大会
第39回 全国中学校軟式野球大会 出場校紹介

東北ブロック 第1位	ふりがな せんだいいくえいがくえん しゅうこうちゅうとうきょういくがっこう	学校名 宮城県 仙台育英学園 秀光中等教育学校									
チームの戦力分析											
1 投手について											
<p>総合力では群を抜く宮本③、クレバーな杉山③、速球派の笹倉②、力で押せる菅野③、伊藤樹②の5人の投手陣。背番号に関係なく、その時マウンドに立っている投手が秀光のエースだと考えている。真夏の宮崎での連戦に耐え、勝ち上がる準備をしてきた。注意深く、意思と意図を持って勇氣ある投球をしたい。</p>											
2 守備について											
<p>全ての部員が下級生時から多くのポジションで試合に出場してきた。全ての守備者が線で繋がれること、その線が強く何本も繋がれるように準備をしてきた。リアクションではなくアクションで守る。 288ケースのアウトをとるために全ての動きに意図がある。迷いの無い判断の早さを生かしたい。バックアップの運動量と献身的なダッシュを徹底したい。丁寧さに勝るものはない。</p>											
3 攻撃について											
<p>野球のゲーム性と本質を理解し、ベースを奪い、跨ぎたい。突出した選手はおらず、判断と徹底で勝負出来るように仮説、検証、実証、準備、確認、徹底、追求をしてきた。今年のチームは個人個人の役割を長い時間と反復練習で整理してきた。劣勢の展開で逆転する練習と試合を重ねてきた。結果よりも一つ一つの準備にこだわり、悔いなくやりきりたい。</p>											
4 チームの特徴											
<p>自分達の野球は存在せず、相手の能力や試合展開によって何色にも変化できる野球を武器としている。また、「判断力」が高い選手が良い選手という基準の元、プレーの価値と具体策を検証してきた。10人の3年生が絶対的に中心。3学年で35名。控えの伊藤理・遠藤・大山・黒田・佐藤寛・高橋・武者・渡部・池田・佐々木・佐藤快・大藤・田澤・利根川・福井・古川・溝上とスタッフ、保護者、チーム一丸となって「日本一からの招待」という信念の元、万全の準備をする。2014年優勝・15年準優勝・16年3位。歓喜から3年。悲しみを知る日本一の幸せ者集団である。</p>											
5 全国中学校軟式野球大会出場回数		7 回目									
6 チーム成績(練習試合を含む)		167 勝 7 敗 1 分									
7 本大会までの軌跡(大会ごとに対戦相手とスコアを記入してください)											
大会			仙台市区大会 地区大会			都道府県大会			ブロック大会		
回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校
			準決勝	7-0	宮城野中	1 回戦	5-0	稲井中	準々決勝	5-1	山王中
			決勝	5-1	南小泉中	2 回戦	9-0	山元山下中	準決勝	12-0	植田中
						準々決勝	7-0	利府中	決勝	7-0	金成中
						準決勝	9-2	名取一中			
						決勝	2-0	金成中			
8 学校紹介(開会式のアナウンスの参考にさせていただきます)											
<p>学園創立112周年を迎えた仙台育英学園の中で、本校は万葉の時代から東北における政治、文化、経済の中心として栄えた「史都」多賀城市に秀光中学校として平成8年に開校しました。平成15年には東北で初めての中・高6年間一貫教育の秀光中等教育学校となり、これまで多くの卒業生と近年続けて、野球部のOBが医・歯・薬の難関大学に進学しております。また2015年夏の甲子園で準優勝に輝き、オリックスバファローズに入団した佐藤世那投手は本校OBの一人目のプロ野球選手になります。</p>											
9 主将の抱負											
<p>日本一からの招待を合言葉にしています。本質から離れず、野球を追求したうえで、意識の高い生活や練習、そして戦い方をしていけば「日本一から招かれる」という教を信じています。東北6県の代表であることに誇りを持ち、敗れていった仲間たちの思いを胸に戦います。これまで入学から沢山の方々に支え助けられて、ここまで来ることが出来ました。今年の夏は「約束の夏」をテーマに仲間や家族そして自分との約束を守る夏にしたいと思います。</p>											